

ミクロン精密 株式会社

2009年11月期 決算説明資料

◆本資料は投資を勧誘、推奨するものではありません。この情報に基づいての投資判断は、個人の責任において行ってください。

会社概要



- 事業内容 : 心なし研削盤(センタレスグラインダ)
内面研削盤(インターナルグラインダ)
その周辺装置の製造、販売
- 社 是 : 技術と人柄
- 社員数(連結) : 213名
- 平均年齢(単体) : 39.3歳
- 業績(連結) : 売上高: 2,739百万円
2009年11月期 経常利益: 87百万円
(第50期) 当期純損失: 38百万円



柄 欠 磨 研 技

【技術と人柄】

技術の研鑽と人柄の醸成を
通じた社会貢献と人格育成

当社の歴史



2000	2009/02 ドイツ A. Berger社に初納入	2008 生産6000台到達
	2007/09 中小型研削盤組立工場(南工場)落成	
	2006/12 中部サテライト落成 (名古屋営業所移転)	
	2000/03 内面研削盤開発	
1990	1998/04 ハイテクノロジーセンター落成 (ナノオーダーの加工精度を目指す)	1994 生産4000台到達
	1989/02 米国 CATERPILLAR 社に初納入	1988 生産3000台到達
1988/06 米国にMICRON-U.S.A., INC. を設立		
1987/06 米国 AUTOCAM 社に初納入		
1980/08 日本電装株式会社(現：株式会社デンソー)に初納入	1980 生産2000台到達	
1980	1978/01 トヨタ自動車工業株式会社(現：トヨタ自動車株式会社)に初納入	
1970	1968/05 社名をミクロン精密株式会社に変更	1969 生産1000台到達
	1966/12 株式会社東洋ベアリング(現：NTN株式会社)、日本精工株式会社に初納入	
	1963/04 株式会社不二越 に初納入	
	1961/10 中川精機製造株式会社として発足	
1960	1958/09 中川精機株式会社山形工場として創業	

当社の製品で研削される加工事例



2009年11月実績 損益計算書(連結)



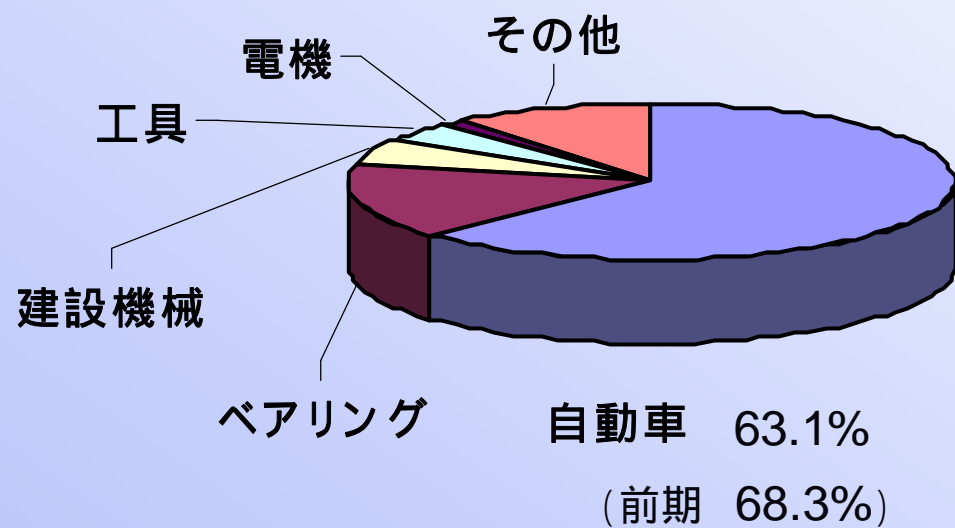
(百万円)

	2008年11月期 実績		2009年11月期 実績		前期 からの 伸び率
		百分比		百分比	
売上高	6,224	100.0 %	2,739	100.0 %	-56.0 %
売上総利益	1,836	29.5 %	734	26.8 %	-60.0 %
販売費及び一般管理費	887	14.3 %	668	24.4 %	-24.7 %
営業利益	948	15.2 %	66	2.4 %	-93.0 %
経常利益	718	11.5 %	87	3.2 %	-87.8 %
当期純利益又は当期純損失(-)	-92	-1.5 %	-38	-1.4 %	- %
1株当たり配当金	40.00円		20.00円		

工作機械業界におきましては、前年比ではアジアを中心とした外需が見られるものの、全体として、受注の減少傾向が継続してきましたことにより、売上高につきましては前期より大きく減少となりました。販売費及び一般管理費の減少につきましては、生産調整による固定費をはじめ経費の削減等を実施したことにより減少したことによるものであります。経常利益の減少につきましては、主に為替の変動による為替差損と投資有価証券評価損(営業外費用)を計上したことにより、また上記経常利益の減少に加え、投資有価証券評価損(特別損失)と法人税等調整額を計上したことにより当期純損失となりました。

業種別売上比率

2009年11月期



- 自動車
- ベアリング
- 建設機械
- 工具
- 電機
- その他

2009年11月期実績 品目別売上高(連結)



(百万円)

	2008年11月期 実績		2009年11月期 実績		前期からの 伸び率
	売上高	百分比	売上高	百分比	
心なし研削盤	4,224	67.9 %	2,027	74.0 %	-52.0 %
内面研削盤	1,373	22.1 %	368	13.5 %	-73.1 %
部品	571	9.2 %	296	10.8 %	-48.1 %
その他	55	0.9 %	47	1.7 %	-14.4 %
合計	6,224	100.0 %	2,739	100.0 %	-56.0 %

製品の売上計上基準を検収基準としていることから、高精度化・高能率化製品を求める顧客の検収条件の一部が未達成のため、売上が翌期以降に繰越となる案件がありましたこと等から、心なし研削盤、内面研削盤ともに前期より大きく減少となりました。その他売上につきましては、メーカーへのテスト売上が減少したことにより前期を下まわりました。

2010年11月期業績予想 損益計算書(連結)



(百万円)

	2009年11月期実績			2010年11月期予想		
		百分比	前期からの伸び率		百分比	前期からの伸び率
売上高	2,739	100.0 %	-56.0 %	2,175	100.0 %	-20.6 %
売上総利益	734	26.8 %	-60.0 %	511	23.5 %	-30.4 %
販売費及び一般管理費	668	24.4 %	-24.7 %	659	30.3 %	-1.2 %
営業利益	66	2.4 %	-93.0 %	-148	-6.8 %	- %
経常利益	87	3.2 %	-87.8 %	17	0.8 %	-79.7 %
当期純利益又は当期純損失(-)	-38	-1.4 %	- %	15	0.7 %	- %

売上高につきましては、好調な新興国経済にけん引され、輸出や生産の回復の兆しが見られるものの、全体として、設備投資はなおも抑制傾向が続くと思われまます。しかしながら、このような状況の中においても、国内外における省燃費化、環境対応のための需要が引き続きあることから、対前期比20.6%減の21億75百万円となる見込であります。営業利益につきましては、生産調整による固定費の削減をはじめ、役員報酬、福利厚生費の削減等、ドラスティックなコスト削減を実施してまいりますが、1億48百万円の損失を見込んでおります。経常利益につきましては、営業損失があるものの、緊急雇用調整助成金や、研究開発に係る補助金収入の営業外収益を見込んでいることから、17百万円を見込んでおります。当期純利益につきましては、法人税、住民税及び事業税を考慮し、15百万円を見込んでおります。

2010年11月期業績予想 品目別売上高(連結)



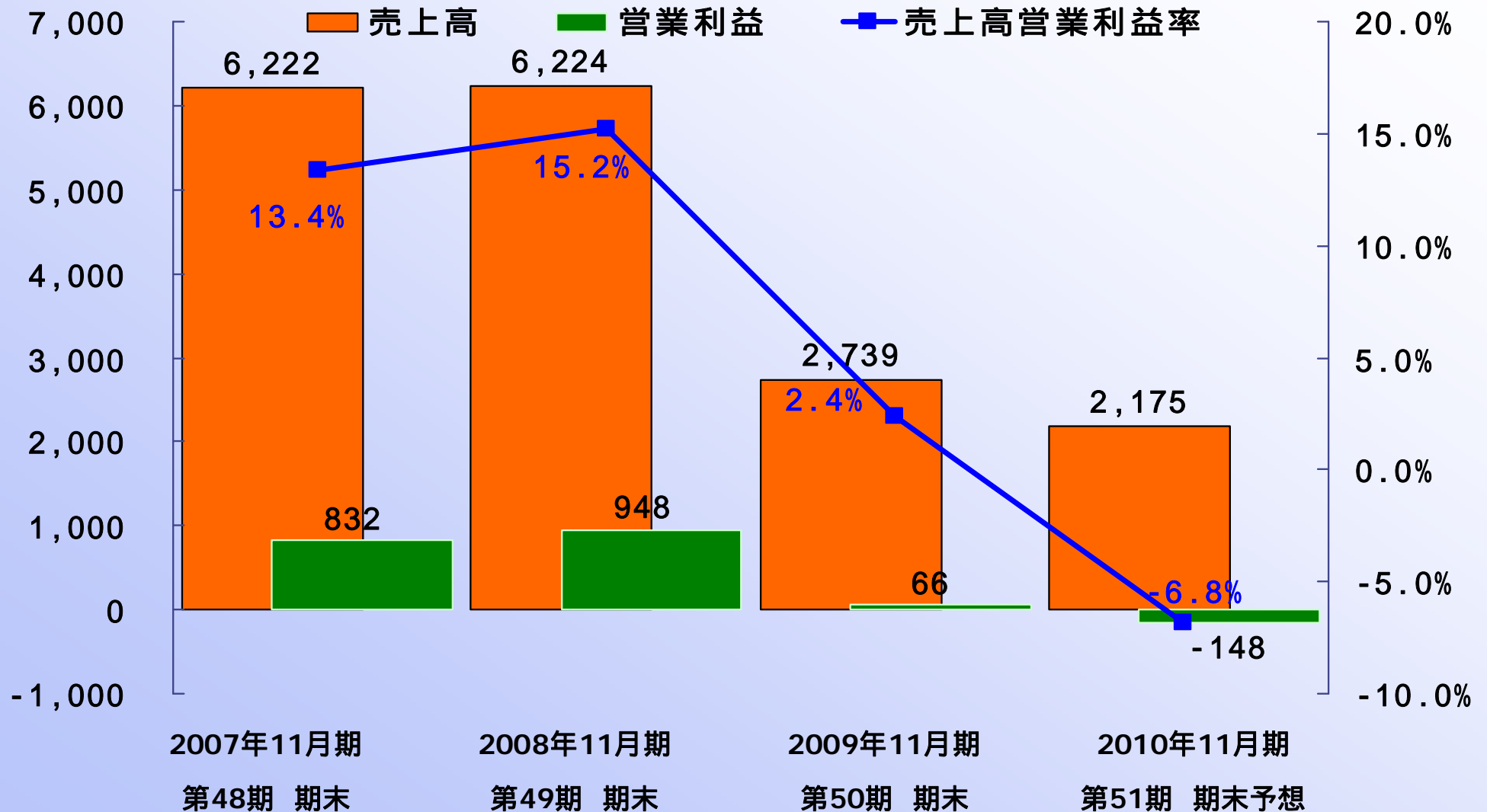
(百万円)

	2009年11月期実績			2010年11月期予想		
	売上高	百分比	前期からの伸び率	売上高	百分比	前期からの伸び率
心なし研削盤	2,027	74.0 %	- 52.0 %	1,522	70.0 %	-24.9 %
内面研削盤	368	13.5 %	-73.1 %	320	14.7 %	-13.2 %
部品	296	10.8 %	-48.1 %	286	13.2 %	-3.5 %
その他	47	1.7 %	-14.4 %	46	2.1 %	-1.4 %
合計	2,739	100.0 %	-56.0 %	2,175	100.0 %	-20.6 %

心なし研削盤につきましては、国内ユーザーへの売上高の減少によりマイナスとなり、内面研削盤につきましては、売上台数は横ばいであるものの、前期比13%マイナスとなる見込みであります。部品、その他につきましてはマイナスではあるものの、ほぼ横ばいと見込んでおります。

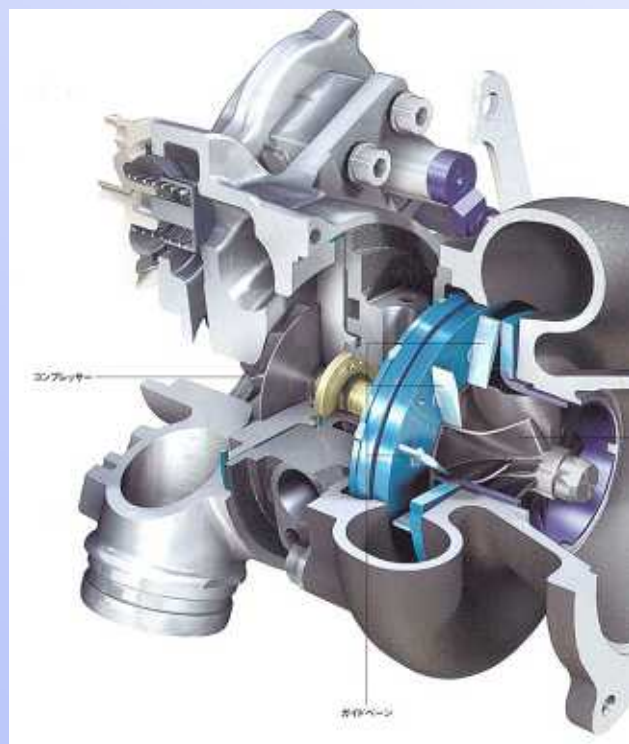
売上高の推移 < 通期 >

(単位：百万円)

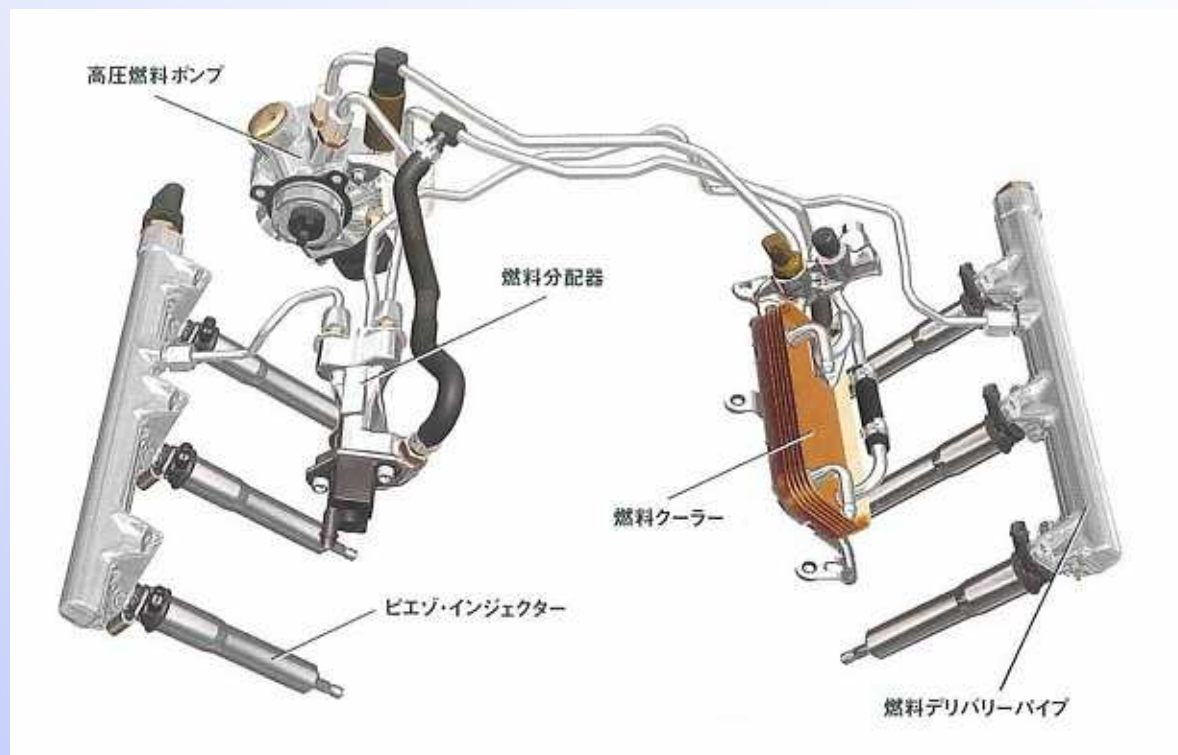


自動車の環境技術への貢献

〈エンジンのダウンサイジング化へ〉



◆ターボチャージャー

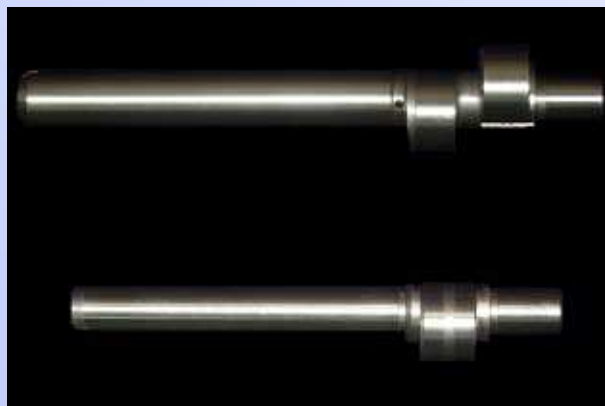


◆直噴燃料噴射システム

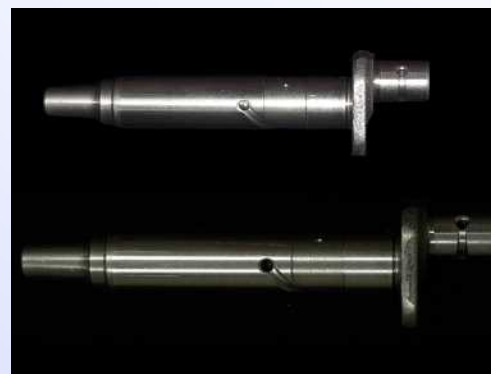
多様な産業への貢献拡大へ

〈家電機器産業〉

◆エアコン用コンプレッサー



◆冷蔵庫用コンプレッサー



◆FAX、COPY機用ドラム



◆プリンター用シャフト



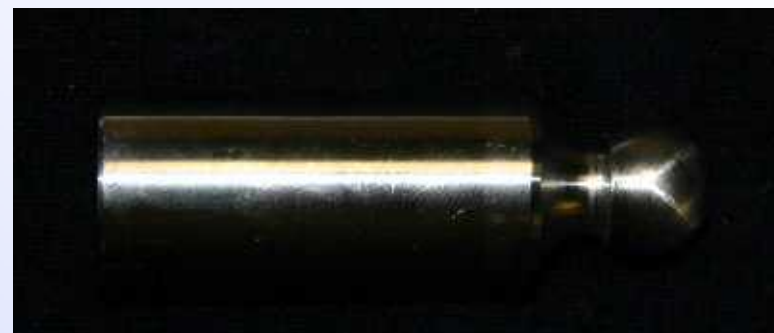
多様な産業への貢献拡大へ

〈産業機械及び建設機械〉

◆各種産業用ボールネジ



◆球付きピストン



◆高精度スプール



多様な産業への貢献拡大へ

〈その他の産業〉

◆医療用ポンプ



◆各種小型レンズ用石英ガラス



◆ゴルフボール



◆電気自動車用シャフト



世界最高峰と社員の幸せを目指して

1. 強みを極める弛まざる研究開発
2. 新興国市場の開拓
3. 新規市場への参入
4. 人財育成

1. 強みを極める弛まざる研究開発

- 小型・高速脱着センターレス
- 高効率組み付けセンターレス
- 球体スルフィード研削機 (産業夢未来基金)
- 内面研削盤用高周波スピンドル
- 静圧スライド内面研作盤
- 高速オシレーション・多機能内面研削盤
(中小企業ものづくり支援)

1. 強みを極める弛まざる研究開発

心なし研削盤 MPC-250HP-CS



稼働率(火花率)の向上を目指して開発した最新鋭機

加工していない(火花が出ていない)加工物の脱着時間を、機械本体構造へ工夫を加えることにより、シンプルで汎用性の高い構造として、究極の0.5secを実現。たとえ生産量が増えないような状況においても、既存ラインの利益率向上のための設備として買い替えの需要が見込める機械。

1. 強みを極める弛まざる研究開発

センタレスねじ研削技術
転造加工(圧縮変形加工)
が困難な材料、セラミクス、
焼結金属の需要の高まりに
より、この加工技術に注目
が集まっている。
電子機器部品の小ねじから
、自動車部品の大ねじまで
、高精度高能率研削に応え
るべく、研究開発を継続中。



2. 新興国市場の開拓

- 世界一の中国自動車市場
- 成長するインド、ブラジル
- 小型車需要の拡大
- 部品価格30%削減
- 新戦略機 MFX-001の開発

3. 新規市場への参入

- ヨーロッパ市場への挑戦継続
- EV(電気自動車)用部品
- セントラル自動車の宮城移転にあわせた販売網強化
- 平面研削盤
- 自動車業界以外への販路の拡大
- 第3の柱の事業化

4. 人財育成

- ものづくりは人づくり
- ものづくり教育推進委員会
- ピンチはチャンス

4. 人財育成

ものづくりは人づくり

現場でおこなう人づくり
～ 技能・技術の伝承と鍛錬～



技術、知識の向上



生産能率向上
人柄の醸成



東北IT経営実践 ベストモデル賞 受賞

2009年2月、経済産業省推進プロジェクト・東北IT経営応援隊事務局より、
東北IT経営実践 ベストモデル賞 受賞

ベストモデル賞

東北地域の中小企業におけるIT経営のモデルとなるべき経営を
実践し、他企業においてもその
取り組みが参考となることを期待
される企業へ授与。

当社は「新統合システムにより無
駄作業の排除とヒューマンエラー
の予防」が評価された。



将来見通しに関する注意事項

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。本資料における将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保障を与えるものではありません。また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。また、業績等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、安全性を保証するものではありません。本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、お客様ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任を負いません。

問い合わせ先 管理部

電話 : 023-688-8112

FAX : 023-688-8545

<http://www.micron-grinder.co.jp>